

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1936
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.30, No.5 (1936. 5)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19360501--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

慶應義塾大學 經濟學部 機關誌

(第 五 號) 號 月 五 (卷 十 三 第)

- 經濟學者としてのジエームズ・ミル 高橋誠一郎
- ベンディクセン及びエルシュタアの爲替理論 金原賢之助
- 商法司と通商司の改廢について 伊東彌之助
- 播州百姓一揆拾遺 (社會經濟史資料紹介) 野村兼太郎
- 手工業徒弟並に青年農業労働者に關する 勞働者心理學の一研究 藤林敬三
- 自然法則(La loi naturelle)に關する 新刊書二種 永田清
- 農産物價格についての近著 小池基之
- 椎名幾三郎著「海上保險概論」 關 乾 治
- 明治初期社會經濟思想文獻大要 加田哲二

大正三年四月一日第三種郵便物認可
昭和十一年四月三十日印刷發行
昭和十一年五月一日印刷發行

(毎月一回一日發行)

大正三年四月一日第三種郵便物認可
昭和十一年四月三十日印刷發行
昭和十一年五月一日印刷發行

(毎月一回一日發行)

三田學會雜誌

第三十卷

第四號

カール・メンガー原著

菊判・上 定價・三圓

最新刊 社會科學方法論

東大講師 岩野晃次 郎共
經濟學士 竹原八郎 善譯
法學士 長守 善譯

短期特價
二期五十五錢
送料十八錢

所謂限界效用學說を樹立し近世經濟學にコペルニクス的轉回を與へたメンガーがこの新學說の方法論を確立すべく經濟學を中心として汎く社會科學全般に亙りその方法論的構成を闡明せる世界的名著である。本書に於てメンガーは當時獨逸に支配的勢力を占めてゐた歴史學派の方法論的立場に精細なる批判を加へ理論經濟學を以て歴史の記述學なりとする一面の歴史主義の誤謬を指摘し歴史の見地の正しき意義と限界を明にし精密方法による理論的認識の可能的根據を明確にした。この間獨逸歴史學派の將帥シュモラーの熾烈なる學術論争は世界の學界を衝動した。本書により歴史の認識と理論的認識との關係は始めて明確となり其後の經濟學は固より社會科學方法論に新なる出發點が與へられたのである。經濟學研究に志す士は勿論廣く社會科學に關心を有するの士の必讀の書が茲に篤學三氏に依つて邦語に移植されたことは同學の慶びであるを信ずる。

最新刊

協同組合研究

東大教授 本位田祥男著 定價三・五〇 送料二〇
經濟學博士 菊判・上製函入

第一篇 協同組合の思想と理論 第二篇 消費組合の諸問題 第三篇 農村協同組合 第四篇 反産運動批判 第五篇 協同組合と政治運動 第六篇 統制經濟と協同組合 産業組合論壇の雄として帝大教授として今を時めく先生の組合理論の集大成である。内容は小院の喋々を要せぬ所只小院は曩に千石與太郎先生の「實行論文集」産業組合の陣營よりを贈り今茲に本位田博士の深き學理を捧げ得ることを讀者諸彦と共に欣快とするのみである

最新刊

景氣政策批判

小樽高商 高橋次郎著 菊判・上製函入 價一・五〇 送一四

景氣とは何ぞや？景氣は如何に動くか？最近に於ける景氣變動學の發達と所謂景氣政策の種々相——自由主義と統制主義、インフレーション・デフレーション、リフレション、ブロック經濟、國民主義と國際主義——等交錯する現代世界の景氣政策は如何なる理論により如何なる功罪を醸しつゝ如何なる歸趨を辿るべきかを明確にせる徹底なる學究の發表。著者はソーゲマン氏の許に留學更に研鑽を積まるゝ置土産として本書をまさられたのである。

高陽書院

東京電話 神田一丁目 小田川三丁目 四二七〇三